ふるさと稲作ほっとLINE No.6

令和６年５月16日

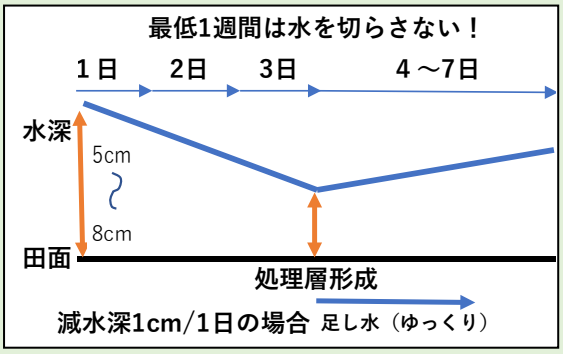
除草剤を最大限活かすために

水稲除草剤を上手に使用することで効果は大きく変わります。最も大切なのは水管理です。上手な水管理によって難防除雑草を一掃しましょう！
また、ふるさと管内は100%ふるさとecoらいす体系が目標です。水稲初期除草剤の田植え前使用はふるさとecoらいすの対象外となりますので注意しましょう（田植え同時処理または田植え直後はふるさとecoらいすの対象となります。）

【ポイントその①】減水深を把握して水深を確保しましょう！
水稲除草剤は散布開始から１週間は水深の確保が必須です。特に散布から３日程度で除草剤の処理層が形成されるため植え直し等は除草剤散布前に実施しましょう。

<粒剤>田植え同時か田植え直後の散布
散布時は3～5cmの水深を確保し１週間湛水を維持する。減水深が激しい圃場では処理層まで水が残るよう予め深めに水深を確保しましょう。

<ジャンボ・豆粒>田植え後３日の散布（直後散布可能な剤もあり）
散布時は6～8cm程度の水深を確保し１週間湛水を維持する。粒剤同様減水深の程度によって予め水を確保しましょう。ジャンボ・豆剤は表層剥離が生じると拡散が阻害されるため、深い耕起浅めの代かきによって予防しましょう。



除草剤を上手く効かせるためには水管理が必須です。
理想は止水できることですが３日は確実に止水し、処理層形成後減水圃場はゆっくり足し水をしましょう

【ポイントその②】雑草防除のため代かきは丁寧に！

田面の凹凸が多い場合は

・稲の植え付け姿勢が悪く浅植えが重なると浮き苗が発生する恐れ。

・浅植えにより水稲苗の生長点が処理層に触れて薬害が起こる。

・そもそも処理層が形成できず雑草が頻発する。

凹凸が無い田面作り、つまり丁寧な代かきが雑草防除に効果を発揮します。

【ポイントその③】圃場条件によって田植え日を調整する。

田んぼの性質によって田植え日を調整しましょう。

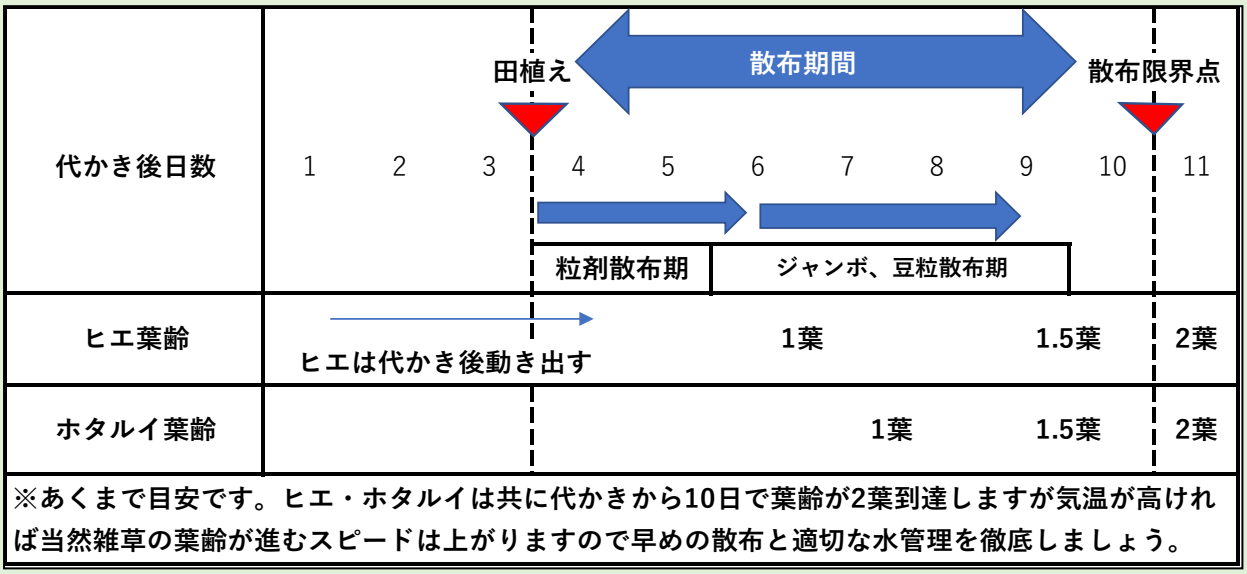
①土壌が粘土質で植え穴が戻りにくい圃場

代かきから翌日もしくは 2 日後に移植しましょう。代かきから日数が立つほど土が締まってしまい、田植えをしても植え穴が戻らず、除草剤による薬害を受ける可能性があります。

②植え穴が通常通り戻る圃場

代かきから 3 日程の田植えが平均です。田植えまでの期間が開きすぎると雑草を防除できる適期を逃してしまいます。

【ポイントその④】水稲除草剤の散布適期について

水稲除草剤は代かき（植代）から 10 日以内に散布する、というのが一つの指標ではありますが、代かきをした時点で雑草は動き始めます。代かき終了から田植え防除散布までの期間をなるべく短くすることで雑草発芽前に除草剤の処理層を形成させることが大切です。

【理想の散布時期】